

## 20. 鳥取県のてんかん地域診療連携事業活動の概要－2021年度－

鳥取大学医学部地域・精神看護学教授、

てんかん診療連携協議会委員長

吉岡伸一

### まとめ

・2021年度のてんかん地域診療連携事業として、てんかん治療医療連携協議会を開催し、COVID19の感染状況下での活動について協議した。

・医療関係者対象のてんかん治療医療連携研修会を県内の東部・中部・西部地区にて対面での開催を実施するとともに、オンラインセミナーを実施した。

・啓発活動として公開講座をオンライン（YouTube）により配信した。

・啓発活動として、「てんかん事業のリーフレット」「てんかん緊急連絡カード」を保育所、教育機関、医療施設、福祉施設、公的施設に配布した。また、てんかん診療拠点機関の鳥取大学附属病院の広報・企画戦略センターにててんかん事業の紹介PRを依頼し、診療拠点機関を含む、県内の医療機関に向けて、本事業の発信していく予定である。

・てんかん診療コーディネーター2名を週4日間、診療拠点機関に配し、電話によるてんかんの相談事業を継続して実施した。17件の相談があり、行政・福祉・教育関係者からの相談が最も多く、その他、家族、医療従事者、本人からの相談があった。鳥取県内外の患者・家族や支援に携わる関係者が気軽に相談できる場所として活用が期待される。

### 1. 概要

鳥取県の人口は令和3年8月1日現在54万9683人で、東部地区22.3万人、中部地区9.8万人、西部地区22.8万人である。日本てんかん学会専門医は8名（東部2名、中部1名、西部5名；小児科5名、神経内科1名、脳外科1名、精神科1名）である。2015年にてんかん地域診療連携体制整備事業のもとで鳥取大学医学部附属病院がてんかん診療拠点機関となり7年目を迎える。2020年よりコロナ禍で活動が制限された状態が続いているが、2021年度における本事業の活動の概要を報告する。

### 2. てんかん地域診療連携事業

#### 1) 第1回てんかん治療医療連携協議会

2021年度第1回治療医療連携協議会を2021年4月13日にオンライン会議にて開催し、事業計画策定の概要、相談体制、研修会、普及啓発活動、予算案について協議し、また、令和2年度の活動実績を報告した。

##### (1) 拠点機関における事業計画の策定の概要

・委員の交代と新規委員の就任。

・地区別：東部地区：4名、中部地区：2名、西部地区：9名

・職種別：医師：8名、行政：2名、看護職その他：3名、コーディネーター：1名

- ・令和3年度事業計画書及び年間スケジュールの了承。

令和3年度てんかん地域診療連携体制整備事業 年間スケジュール(予定)

	令和3年4月	令和3年月	令和4年3月	令和4年月	令和4年月
てんかん協議会	第1回てんかん治療医療連携協議会開催 Zoom会議	第1回全国てんかん対策連絡協議会	第2回全国てんかん対策連絡協議会	学内事前調整会議	第2回てんかん治療医療連携協議会開催 (TV会議)
研修会	症例検討会、医療・福祉・教育関係者対象とした研修会開催を検討				
講演・イベント	てんかん公開講座開催予定(企画未定)				
ホームページ関係	診療拠点機関にて保守・管理、編集(イベント・講演会・研修会案内、てんかん・陽報更新、HP内容の改善等)				
周知活動	てんかんポスター・リーフレットを関係機関へ送付、講演・イベントにおける地域への周知				

(2) 相談体制

・診療拠点機関のてんかん診療支援コーディネーター：年度当初1名体制（月・火・木・金曜日：13時～16時）で実施。7月より、2名体制にて実施。電話相談が主体。

・相談体制の周知：関係機関（医療・行政・教育・福祉機関）への事業ポスター、リーフレットを送付し掲示を依頼。ホームページを活用し事業活動情報を公開。

(3) 研修会

・令和2年度は、東部・中部・西部地区毎に研修会を実施。東部地区は静岡てんかん・神経医療センター名誉院長の井上有史先生によるオンラインセミナーを実施。令和3年度は、東部・中部・西部地区毎に対面による研修会開催を計画。

(4) 市民への普及啓発活動

・令和2年度に継続し、オンラインセミナーを計画。

(5) 報告事項

・令和2年度てんかん地域診療連携体制事業（実績報告）を報告した。

2) 第2回てんかん治療医療連携協議会

第2回治療医療連携協議会を2022年3月にオンラインにて開催し、今年度の活動を振り返るとともに、次年度に向けた活動計画案を提示する予定である。

3) 支援拠点病院の鳥取大学医学部附属病院における診療科別てんかん患者数

・てんかん診療拠点機関である鳥取大学医学部附属病院での2021年1月1日から12月31日までのてんかん患者数（保険診療病名から）を調査した。なお、複数回受診でも1回としてカウントした。保険診療病名であるため、特に精神科の患者数は多めに出ている可能性がある。脳神経内科、脳神経小児科、精神科、脳神経外科が主にてんかん診療を行っている」と推察できる。

診療科別受診てんかん患者数（2021.1.1-2021.12.31）

診療科	人数	診療科	人数
感染症内科	1	心臓血管外科	4
眼科	2	腎臓内科	4
救急科	29	新生児医療センター	1
形成外科	4	整形外科	10
呼吸器・膠原病内科	29	精神科	306
呼吸器外科	4	総合診療外来	1
血液内科	14	内分泌代謝内科	3
耳鼻咽喉科頭頸部外科	11	乳腺・内分泌外科	4
歯科口腔外科	5	脳神経外科	241
腫瘍内科	6	脳神経小児科	411
循環器内科	21	脳神経内科	468
小児科	30	泌尿器科	13
消化器外科	13	皮膚科	2
消化器内科	9	麻酔・ペインクリニック外科	21
女性診療科	10	合計	1677

4) てんかん地域医療連携研修会

【東部地区】2021年12月20日

講師：前垣義弘（鳥取大学医学部脳神経小児科教授）  
研修会名：「熱性けいれん～初期対応と診療ガイドライン～」

会場：鳥取県立中央病院、対象：研修医。参加人数：10名

熱性けいれん  
- 初期対応と診療ガイドライン -

鳥取県立中央病院研修医勉強会  
鳥取大学医学部脳神経小児科

2021年8月26日 鳥取県立厚生病院 ランチタイムセミナー

臨床で出会うてんかんと  
脳波の活用

鳥取県立厚生病院 精神科  
植田俊幸

【中部地区】2021年8月26日

講師：植田俊幸（鳥取県立厚生病院精神科医長）  
研修会名：「臨床で出会うてんかんと脳波の活用」  
会場：鳥取県立厚生病院、対象：医療従事者。参加人数：14名

【西部地区】2021年11月4日

講師：吉岡伸一（鳥取大学医学部保健学科教授）  
研修会名：「大人の痙攣・てんかんの診断と治療」  
～鑑別診断を含む～  
会場：鳥取大学医学部附属病院、対象：研修医。参加人数：11名

大人の痙攣・てんかんの診断と治療  
～鑑別診断を含む～

鳥取県てんかん地域診療連携事業  
鳥取大学医学部保健学科地域・精神看護学  
吉岡伸一

鳥取大学医学部附属病院  
卒研センターカンファレンスルーム  
2021年11月4日（木）17時30分～18時

研修会参加者に対し、研修会終了後に実施したアンケートの結果の一部を示す。研修会参加者の多くが研修医であったため、全員が研修会によりてんかんに関する理解が増えたと回答していた。同時に鳥取大学医学部附属病院のてんかん地域診療連携体制整備を紹介しているホームページの閲覧状況について尋ねたが、参加者のほとんどが閲覧していないことが確認された。参考に本事業のホームページ上で公開している鳥取県内のてんかん診療実施医療機関・診療科におけるホームページの閲覧状況においても、15施設・診療科（32%）しか閲覧したことがないと回答があった。

てんかん研修会受講者のアンケート結果（一部）

	東部地区	中部地区	西部地区	（鳥取県）
てんかんに関する理解は増えましたか？	10（100）	14（100）	11（100）	
地域診療連携体制整備事業のホームページを閲覧されたことがありますか？	2（20）	1（7）	0（0）	15（32）
	（n = 10）	（n = 14）	（n = 11）	（n = 47）

## 5) てんかんに関するオンラインセミナー

- ・てんかんに関するオンラインセミナーを診療拠点機関のHPに掲載・配信

2022年2月10日～2月28日に公開

講師：岡西徹（鳥取大学医学部脳神経小児科准教授）

研修会名：「小児てんかんの診断と最新治療」

視聴対象：医療従事者・福祉・教育等



## 6) 啓発活動

- ・公開講座（オンライン）をYouTubeにより公開

2022年3月10日～3月28日

講師：岡西徹（鳥取大学医学部脳神経小児科准教授）

研修会名：「小児てんかんについて知っておくこと」

視聴対象：市民等

- ・令和3年度に公開講座として行った講演をYouTubeにより配信

2022年3月10日～3月28日

講師：前垣義弘（鳥取大学医学部脳神経小児科教授）

研修会名：「子どものてんかん」

視聴対象：市民等

## (2) てんかん事業の紹介

- ・県内の保育所、教育機関、医療施設、福祉施設、公的施設に、「てんかん事業のリーフレット」および「緊急連絡カード」524通郵送。複数の医療機関、養護学校、福祉事務所等から追加郵送希望があった。

## (3) 緊急連絡カードのHP上公開

- ・てんかん地域診療連携体制整備事業HPに「緊急連絡カード」の使用法の説明文と希望者が印刷して使用できるように案内した。

## (4) その他

- ・2021年6月に鳥取県立厚生病院のテレビ健康講座で「てんかん」の話をし、本てんかん事業の紹介を行った。
- ・鳥取大学附属病院の広報・企画戦略センターにてんかん事業の紹介PRを依頼。
- ・てんかん地域診療連携体制整備事業HPアクセス件数(2021年4月～2022年1月)

<p>私はてんかん発作を起こすことがあり 支援を必要としています。</p> <p><b>発作が起きた時支援してほしいこと</b></p> <p>1. 救急車を呼んでください。 2. 救急車を呼ばないで状態を観察して下さい。 (私の希望は○で囲んだ方です) ※ただし、けがをしていたり、けいれんが10分以上続くとときは、救急車を呼んでください。</p>	<p>性別と住所の町村以下の記入は任意です。</p> <p>氏名： 年齢（ ）記号 年 月 性別（ ） 住所：鳥取県 市・郡 町・村</p> <p>緊急連絡先 氏名： 電話：</p>
<p>発作の症状： 発作の時間： 発作後の状態：</p>	<p>受診医療機関名： 電話： 服用薬（種類・量・回数） ※薬手帳のコピー貼付可</p>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	計
3370	3170	3749	2951	2873	3028	3139	2255	2961	3374	30870

## 6) 相談事業

てんかん診療支援コーディネーター

は、てんかん診療拠点機関の鳥取大学医学部附属病院内（脳神経小児科医局内）の相談室に在室している。

2021年度は、2020年11月より1名体制であったが、2021年7月より2名体制で事務を兼任しながら専任で実施している。2名のコーディネーターともに看護師資格があり、非常勤（パートタイム）の勤務形態で、月・木曜日の13時～16時、火・金日の10時～13時に勤務し、主に電話による相談業務を行っている。希望があれば面談も行っている。相談事業のほかに、HPの活用や更新、ポスター、リーフレットの配布し、相談窓口情報の提供など、本事業の事務処理も行っている。

てんかんのある方からの相談対応の向上に向けて、国立精神・神経医療研究センターのてんかん全国支援センター主催のてんかん支援コーディネーター研修会に、コーディネーター2名が受講し、相談業務のレベルアップを行った。

(1) 相談件数：2020年4月～2022年1月末時点での相談件数は18件であった。

連携持病に関するものが10件と最も多く、次いで他の医療機関への紹介、福祉関係機関への紹介がそれぞれ3件であった。

### 【相談件数】

2022.1.31現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	2	0	0	0	5	6	0	3	2	0			18
鳥大医学部附属病院への紹介件数	0												0
他の医療機関への紹介件数	0				2				1				3
福祉関係機関への紹介件数	1							1	1				3
連携事業に関するものの件数	1				3	5		1					10
その他	0					1		1					2
計	2	0	0	0	5	6	0	3	2	0	0	0	18

### (2) 相談対象者

相談者の内訳では、「行政・福祉・教育関係者」が9件と最も多く、次いで「医療従事者」「家族」「患者本人」の順であった。

#### 【相談者の内訳】（重複あり）

相談者	件数
患者本人による相談	2
家族による相談	3
地域の方による相談	0
企業からの相談	0
医療従事者からの相談	4
行政・福祉・教育機関からの相談	9

### (3) 相談内容

相談内容の内訳では、「てんかん事業」が8件と最も多く、その他「知識」「医療機関紹介」「就労支援」の順で、様々な相談が寄せられた。

また、2021年度は昨年度作成の「緊急カード」を教育機関、医療機関、役場等にリーフレットと共に郵送したことから、カードの追加郵送依頼や家族等への詳しい使用方法の相談などが多く寄せられた。その中でも養護学校の教諭が熱心に

取り組み、家族に自分でパンフレットを作成配布してそこからさらに家族が追加希望されるということにつながった。

ハローワークの方から「てんかんのある患者さんが、主治医が変わったので心配だから診察に同行してほしいという希望があり、コーディネーターが対応してもらえるか？」という相談があった。

てんかんのある患者さんの母親から「診療科を変わりたくなかったが、20代の娘が大人の診療科に変更となった。しかし診察医師の対応が熱心でない」という相談もあった。

#### (4) 相談後の対応

相談後の対応としては、電話相談のみで終結したケースが多かった。その他、「行政・福祉事業所への紹介」「他の医療機関への紹介」「専門医への紹介」を紹介したケースもあった。

#### (5) 総括

相談件数は、最近はほぼ横ばいの状態にある。相談者は、患者・家族以外に今年度は行政・福祉・教育関係者からの相談が最も多かった。ホームページを開設していることもあり、鳥取県以外から相談があり、気軽に相談できる場所として、今後も活用が期待される。相談を受けた場合、その場で回答する場合もあるが、相談内容によっては即答できないものもあった。

#### 【相談内容】（重複あり）

病状・治療について	0
受診相談・セカンドオピニオン	1
転科について	0
公的支援（社会制度・保険）	1
運転免許について	1
知識について	3
かかりつけ医について	1
医療機関紹介	2
就労支援	2
医療関係者とのトラブル/不満	1
てんかん発作以外の症状について	0
てんかん事業について	8
福祉事業所の紹介	1

#### 【相談後の対応内訳】（重複あり）

相談	13
当院への紹介・受診	0
専門医へ紹介	1
他の医療機関への紹介	3
行政・福祉事業所への紹介	3

### 7) その他の活動

2021年9月18日に開催された第5回兵庫県下でのてんかん診療連携を考える会にて、「鳥取県におけるてんかん地域診療連携体制整備に向けた現状と課題」について特別講演した。講演において、鳥取県内におけるてんかん医療の現状及びてんかん地域診療連携体制整備事業の特色と活動実績、活動における課題について紹介した。

第5回兵庫県下でのてんかん診療連携を考える会  
2021年9月18日(土)

鳥取県におけるてんかん地域  
診療連携整備に向けた現状と課題

鳥取大学医学部保健学科地域・精神看護学

吉岡 伸一

### 3. 成果と課題

- ・今年度も、COVID-19の感染拡大により、本事業の活動が制限された。そのような中で、てんかん治療医療連携研修会を対面により、県内3カ所で実施し、また、オンラインによるセミナーも研修会及び市民への啓発活動を含めて実施した。
- ・今年度、昨年度に作成したてんかん緊急連絡カードを県内の保育所、教育機関、医療施設、福祉施設、公的施設に配布した。また、ホームページ上に公開し、患者さんやその支援者が活用してもらい、使用方法の説明文と希望者が印刷して使用できるように案内した。

- ・コーディネーターへの相談は、COVID-19により件数は少なかったが、行政・福祉・教育関係者、家族、医療従事者からの相談があった。また、県内外からの相談も寄せられた。
- ・県内のてんかん専門医は8名登録されているが、地域や専門分野が偏在している。今後も、県内の各所でてんかんにおける研修会などを開催し、てんかん診療を担う医療機関との連携体制を強化する必要がある。
- ・HPや広報活動により引き続き相談事業の認知を図り、啓発活動を継続していく必要性を感じている。
- ・てんかん診療拠点機関にてんかんセンターとしての機能がないが、診療拠点機関内での広報活動のPR活動を行うとともに、県内の医療機関・診療科の垣根を越えて本事業の展開を行う必要があると考える。